

(1) 学校全体の活動<地域の人・もの・ことから学ぶ>

- ①南小かがやきタイム：7/11（土） 中止
- ②地域の方のお話を聴く会 中止
- ③学習支援
 - ・家庭科 5, 6年 中止
 - ・クラブ活動 「切り絵」中止
 - ・生活科・総合的な学習の時間 2年 リンゴ栽培, 5年 米作り
 - ・スキー教室インストラクターボランティア
- ④行事や地域の活動への参加
 - ・志賀高原ESD体験学習
 - 1・2年：やまびこの丘, どんぐりの森公園
 - 3・4年：まが玉の丘コース
 - 5・6年：笠ヶ岳登山



1, 2年生



3, 4年生



5, 6年生

- ・そばの種まき（3年）（そば打ちは中止）
- ・信州ESDコンソーシアム成果発表会&交流会（6年）

⑤読書わくわくタイム

- ・PTA子育て委員による読み聞かせ
- ・寺島妙子さんによる読み聞かせ



(2) 各学年の活動

1学年 つくる～生き物のいる環境

中庭の池で遊び始めた子どもたちは、何度も繰り返すうちに、池の中や周辺に思いのほか生き物がいないと感じ「生き物（トンボ）が集まる中庭にしたい」と考え始めた。そこで、8月に生き物が豊富な須賀川地区のビオトープを全員で訪問し、生き物の観察や遊びを行った。その際ビオトープの土を採集し、中庭に小さなビオトープを再現すれば生き物が集まるかもしれないと考え、土の採集もおこなった。日当たりや水の温度などの環境因子も子どもたちなりに考え始める姿が見られた。



10月、11月に近所の牧場を訪問し、身近な場所に牛がいること、牛乳やヨーグルトやチーズはスーパーで売っているだけでなく、自分の手でも作ることができることを知り、驚くと共にやってみたいという意欲を高めた。2月にはヨーグルトづくりにも挑戦し、参観日に保護者とともに試食をした。

2 学年 ～私たちとりんご～

毎年2年生が取り組んできたリンゴの栽培に今年も取り組んだ。11月下旬の販売に向けて活動を進めるなかで、充実した販売となるよう子どもたちと検討し、6年生から教えてもらった新聞紙エコバックに入れての販売を決定し、エコバック作りを6年生と行った。また、子どものつぶやきから、「りんごの名産地」という歌詞をつくり、コマーシャルソングとして活用した。販売後にりんごを購入した方から、学校にメールでりんごの感想が多数届いた。それに対して子どもたちがお礼の手紙を送る学習をした。



3 学年～私たちの町山ノ内 そば作りを中心に～

地域探検を行い、学区内のそれぞれの地区の地勢や産業など、社会的な視点からの見学にあわせ、自然や公園の中で遊んだり、温泉の足湯につかったりという体験活動をする中で、自分たちの町のよさを肌で感じられるように考えた。自分の住んでいる地区をクラスの友だちに紹介することを通して、そのよさを再認識できた。



もう一つの柱のそば作りは、地域の少年警察ボランティアの皆さんに、須賀川地区の畑で、そばの種まきの体験をさせていただいた。また、学校の畑でそばを作ってみたいと願いを持った子どもたちは、そばの種まきから収穫、製粉なども自分たちの力でやりたいと考えた。お借りした畑にそばの種をまき、刈り取り、脱穀、天日干し、製粉などの作業は、千歯抜き、唐箕、石臼などの昔からの道具を使って行った。地道で根気のいる作業も多かったが、活動の中で「早く食べたいな」「そばクッキーにしたい」などの声が聞かれ、3学期には、そば粉を使ったお菓子作りに取り組んだ。

4 学年 ～大豆を食生活に活かそう～

子どもたちの「自分たちで作った野菜を具にしてみそ汁を作りたい」「大豆の他の料理もしてみたい」という意識を始まりとして学習を進めてきた。そのため野菜を学校の畑で栽培したり、昨年度仕込んだみその変化を観察したりした。収穫後はみそ汁作りに取り組んだ。昨年度健康教育で学習した食品の持つ栄養素のことを生かそうとする姿が見られた。



また、大豆についての学習を進め、こどもたちは大豆の持つ栄養素に関心を向けて調べ、大豆の持つタンパク質が注目されていることが分かり、給食の献立の中にもいくつか大豆を使った料理があることに気づき、献立表を調べ始めた。調べたことをもとに休日の昼食を想定して大豆を使った料理を取り入れた献立を考えた。食生活と健康との深い関わりを意識し実生活に活かそうとする姿が見られた。

1年生のときから飼ってきたうさぎの「げんき」には、今年も自分たちで育てた野菜の葉っぱなどをエサとして与えたり、給食センターに野菜の切りくずをお願いしたりして育ててきたが、残念ながら3月に急死してしまった。

5 学年 ～地域のブランド米 雪白舞～

5月 休校明けに田植えができるようにと、堀内さんが準備を整えてくださり、休校明け直後に田植えを行った。6月には協力していただいている方から余った苗をいただき、学校で一人ひとつずつバケツに稲を植えて観察を始めた。9月に稲刈りをし、10月に脱穀を行った。コンバインと昔の足踏み脱穀機で行ったが、「足踏み式は力はあるし大変だけど、なんか自分たちのお米って感じがする。」と感想を持った。



雪白舞の基準を満たすことが分かり、米・食味分析鑑定コンクールの小学校部門に応募したところ、

金賞を受賞した。受賞したことで、協力してくださる方の農家としての仕事の丁寧さと米作りと向き合う真剣さに改めて気づくと共に、子どもたちは「産業としての米作り」「この米をどう活かしていけるのか」などに目が向き始めた。

3学期には、6年生のESD学習発表を聞いて環境問題にも関心が向き、使い捨てカイロを回収して、水質改善に活かしている企業があることを知った子どもたちは、全校に呼びかけて、使い捨てカイロ回収を行い、企業へカイロを送った。

6 学年 ～海なし県から考える海洋プラスチックごみ問題 エコアクション～

長野県という海無し県の陸域から排出されるゴミが、川に流され海にたどり着くことをテレビ番組で学習した子どもたちは、問題の深刻さを感じ、まずは身近な地域のゴミを拾う活動を行い、改めてプラスチックゴミが多いことを実感した。10月の修学旅行では富山県を訪れ、海岸に落ちているゴミを見て拾い始めるなど、現実の問題としてとらえることができた。



11月にはレジ袋の有料化に伴い、本校2年生が毎年リンゴ販売の際に使用するレジ袋を新聞紙エコバッグに代替して販売する企画を実行した。自分たちにできることを児童自らが見付け、行動した活動であった。



さらに、12月、2月にはプラスチックゴミの問題について、静岡県細江小学校や多摩市立連光寺小学校（ユネスコスクール）とオンラインでつないで交流を行い、陸域と海域の違いや取り組んでいることについて意見交換をすることができた。